

## 再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局街路課

担当課長名：松谷 春敏

<b>事業名</b> 十三高槻線（寿町地区）	<b>事業区分</b> 街路	<b>事業主体</b> 大阪府
<b>起終点</b> 自：大阪府吹田市南清和園町 至：大阪府吹田市寿町1丁目		<b>延長</b> 0.7km
<b>事業概要</b> 都市計画道路 十三高槻線は、大阪都心部と京都を結ぶ主要な幹線道路であり、現在の連絡ルートである主要地方道大阪高槻京都線、国道479号のバイパスとして整備するものである。阪急千里線との立体交差を行い大阪高槻京都線、国道479号の渋滞緩和及び周辺地域の安全かつ円滑な通行を図る。		
H 9年度事業化	S 41年度都市計画決定（H1年度変更）	H 9年度用地着手
		H 14年度工事着手
<b>全体事業費</b>	約81億円	<b>事業進捗率</b> 42%
<b>計画交通量</b>	10,700台/日	<b>供用済延長</b> 0.0km
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 2.9 (残事業) -	<b>総費用</b> (残事業)/(事業全体) - / 85億円 (事業費) - / 81億円 (維持管理費) - / 4.0億円
	<b>総便益</b> (残事業)/(事業全体) - / 246億円 (走行時間短縮便益) - / 233億円 (走行費用減少便益) - / 12億円 (交通事故減少便益) - / 1.0億円	<b>基準年</b> 平成18年
<b>事業の効果等</b> ・円滑なモビリティの確保（周辺道路の交通量転換により、踏切交通量減少が期待される） ・都市の再生（沿道まちづくりとの関係あり）（吹田操車場跡地利用計画）		
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 十三高槻線は、吹田操車場跡地利用をはじめとする周辺地域のまちづくりへの寄与や大阪高槻京都線の慢性的な交通渋滞の解消が期待されており、毎年度、地元市（吹田市）より事業区間の早期完成の要望（平成18年11月20日）を受けている。		
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 周辺の市街化が進み地域内発生交通量も増えたことにより、交通渋滞はますます深刻化している。		
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 一部において用地補償容疑が難航したが、平成14年度より工事に着手し、阪急千里線との立体交差部についても平成16年度よりアンダーパス工事に着手している。		
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 平成16年度に阪急電鉄と工事委託契約を締結しており、平成20年度で鉄道アンダーパス工事を完了し、平成22年度末に全線供用予定である。		
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 特になし		
<b>対応方針</b>	事業継続	
<b>対応方針決定の理由</b>	事業の必要性が認められ、事業進捗上、特段の支障がないことから「事業継続は妥当」と考えます	
<b>事業概要図</b>		